東住吉区の救急医療の現状～地域医療連携の未来にむけて～

医療法人橘会 東住吉森本病院 副院長兼救急・総合診療センター長
池邉　孝（いけべ　たかし）

令和 8 年 10 月 1 日「令和 8 年度東住吉区医師会救急医療講習会」におきまして、上記の演題で講演させていただきましたのでご報告いたします。以下講演の要旨です。

東住吉区では高齢化率が大阪市全体の平均を上回っており、特に独居の高齢者が増えています。こうした背景から、高齢者の救急医療への需要がますます高まっており、地域の医療機関が連携して救急患者を受け入れる体制の充実が重要となっています。

当院の救急隊からの受入れ要請に対する応需率はこの 5 年間で 43.7%から 83.3%と改善しています。これは、創立以来続けてきた救急中心の診療システムが有効に稼働したことによると考えます。そして「断らない救急を実現する院内連携フローの実践」（図 1）がシステムの根幹をなしています。すなわち、職員一人ひとりの自覚の下、「病院全体を巻き込んだプロジェクト」として連携を構築しているからこそ、断りを極小化することが可能になり、応需率の上昇に繋がりました。

地域全体をひとつの医療チームと考えて、当院が提供できるバックアップ体制を図 2 に示します。第一に 24 時間 365 日『断らない救急』体制で高度な医療を提供します。次に必要に応じて、循環器、消化器、呼吸器、整形外科、脳神経各科の専門的介入へと繋ぎます。そして地域医療支援病院として、クリニックの先生方に病院機能を共有していただくとともに、当院での治療後は、患者様の状態に応じて紹介元の先生方へ診療を引き継ぎ、継続的な療養を支援しています。

今後も地域のみなさまとより強固な連携をとり、当院の役割を全うしてまいります。

以上ご報告申し上げます。

2026 年 11 月

文責　医療法人橘会 東住吉森本病院 副院長兼救急・総合診療センター長
池邉　孝